

act 37

art, culture, tradition

【発行】札幌市教育文化会館

アクト第37号

March 2021



シェアオフィス tab.

「tab.」は、映画、音楽、演劇、イラスト、アート、デザイン、イベント…と幅広いジャンルに関わる人たちが集まったシェアオフィス。仕事はもちろん、自主企画や自主制作といった形で、面白いことや好きなことを長年マイペースに追求してきた人たちの集まり、と言ってもいいかもしれません。単にオフィスを共有することにとどまらない、「集うこと」の意味を探るべく、tab.の扉を開けてみましょう。





タブノサイトラツクルノハドウダ? デモンレディゴトガイッパイキタラドウスルンダ? シゴトラシナイトイケナイゾ? ソレハチョットメンドクサクナイカ? ソモモワタシタブショゾクッテカイテナイ、ソレチョットハズカシイ。ハズカシイノハチョットワカル。ジャアイッカコノママデ。

写真:クスメエリカ 撮影協力:郷土料理 加賀屋

互助会?遊び場?ジャンルもバラバラな人たちによる

網の目クリエイティブ

10数名が所属するというtab.から、カジタシノブさん、小野朋子さん、大塚黒さん、小島美紀さん、山口哲志さん、クスマエリカさん、あやかたさん、モンマユウスケさんが参加し、オンラインとオフラインを交えて実施されたハイブリッドな座談会。まとまらないままお届けします。

PROFILE



カジタ

tab.をやるうと言出した。各種プロデュース、ディレクション。



小野

上映事業企画制作。主な事業に札幌爆音映画祭など。



黒

イベント関連なんでも屋。



山口

ドラマチッククリエイション&エンターテイメント企画。略してドラクエ企画。



クスマ

フォトグラファー、美術作家、他。詳しくはact36参照。



モンマ

デザイン、映像制作、アートディレクション。



小島

WEBデザイナー。八雲在住。



あやかた

音楽&フード系スーパーヘルパー。

tab.を立ち上げた経緯とは?

カジタ もともとATTIC(※1)があった頃に、企画系の人たちが協力しあえるような何かをつくれなかなと、何人かに声をかけていたんです。面白いことを考える人がいっぱいいた方が、自分一人で考えるより脳みその拡張みたいな感じでできるから便利だよねって。そうこうしているうちにATTICが終わることになって、街中の拠点としてシェアオフィスを立て上げた感じでした。

※1)2007年のオープン以降、さまざまな表現を発信してきたオルタナティブスペース。2013年に終了。カジタ、小野、黒の3名はATTIC運営組。

小野 脳みその拡張というのは確かにある。ネットで調べるより「このことだったら山口さんに聞いた方が早いよ」とか。あと普通だったら上映会も上映団地でやることを、私は自分の名前ですべてやって。tab.にはデザインや当日手伝いなど小回りの利くメンバーがいるので、それで何とかこなしてきたっていうのがすごくある。

カジタ tab.のメンバーが強いジャンルはみんなバラバラで、つながりもそれぞれ違うから、具体的な企画になる前のリサーチがすごく捗るんだよね。

モンマ あと例えばカジタさんが持ってきた案件で、写真が必要だからクスマさんがやって、グラフィックデザインが必要だから僕がやって、そこからイベントもできそうだったら黒君に声がかかってというように、一つの案件から芋づる式に関わる人が増えてきたりはあります。

カジタ ちなみにモンマ君はtab.立ち上げ当初めっちゃ暇人だったので、仕事が多量に振られて、結果できることが増えて今に至っています。



モンマ 最初はグラフィックデザインのみだったけど、「映像撮れる?」「映像いじれる?」と聞かれたことに応えていた結果、今はグラフィックデザインと映像制作とアートディレクションを主にしています。



カジタ とは言っても、別にtab.内の人を使わないといけないわけではないので、誰が今どんな仕事をしているのか全然把握していません。全員が集まることもないし。



モンマ 全員でやっているのって、「奥さんお絵かきですよ!」(※2)くらいですよ。

※2)どさんこワイドの人気コーナー。挑戦者がお題を絵で表現し、回答者が時間内に言い当てると賞金が出る。毎日このコーナーの開始時間になると、tab.のLINEグループにテレビ画面の写りが投稿されるので、メンバー内で回答を競っているそうです。



小島 あ、でも私は八雲在住なので、みんなで「奥さんお絵かきですよ!」を見て答えるやり取りとか、「誰かがいる」という心強さはすごくあります。



山口 仕事の相談を簡単にできるのもいいところだけど、ただ単純に話し相手がいるっていうのがいい。



カジタ 僕はtab.を互助会と言っていますから。みんな老けてきたので、そのうち老老介護するのかなって話したりしています。絶対しないだろうけど。



小野 「tab.があるから最終的には何とかなるだろう」みたいな感じで仕事を受けちゃうこともあるよね。セーフティネットのようなもので、「成功はしないかもしれないけど、成立はするだろう」って思えるのは大事じゃないですか。一人でやっているのと特にそうで、「何とかしなきゃ」ってときに気軽に助言し合える距離感はすごくありがたい。

それぞれの思うtab.とは?



カジタ もともと「どうせみんな暇なんだから、一緒に遊ぼうよ」ってところから始まっているので、僕は「互助会」と「脳みその拡張」ぐらいかなあ。



小島 私は2018年に八雲町のフリースペースで「ordo(オルド)」という交流イベントを開催して、tab.メンバーにお話をしてもらったりしていて、もっとみんなで何かできたらいいなと思う一人です。やっぱり、みんながいることで仕事ができているし、みんなとクリエイティブなことをするのが糧になっています。



クスマ カジタさんの言う「互助会」は、非常にびったり来る。大人のサークルっぽいノリもあるし、義務で集まっているわけじゃなく、一緒にいてもいい感じの人たちの集まりです。



山口 tab.は遊び場だったらいいなと思っています。最近ちょっと仕事ばっかやっているんで、なんか久々にちゃんとした遊びをしたい。



あやかた 私は新入りなのであれですが、tab.の人たちはキャラクターがとてもはっきりしていて、これまで自分が全く絡んだことのないような人たちがばかりなので、tab.に行くときはいつも漫画の登場人物に会いに行くような気持ちです。私でもできることをもつとくつきさせないといけないなって思わせられる場所ですね。



モンマ 大きいイベントの現場仕事で、行ってみたらtab.のメンバーがいて「あれ?いるんだ?」ってなることが結構あ

て。お互い別の人から頼まれて仕事に来ているんだけど、蓋を開けたら「tab.の人ばかりじゃん」って言われたりしているのが面白かったり。tab.は上下関係もないし横のつながりとも違う、何か至るところに糸が引っかかって、網の目みたいに相互につながったり広がったりしていくのが面白いなと思います。



小野 私は人生の教訓が「安定の低空飛行」なのですが、「何とかなるだろう、ここにいれば」っていうつながりによって、新しいことをピョンとできるような気がする。割とそれにずっと支えられている気がします。



黒 俺ちょっと山口さんに近くて、遊び場に近い。あと基本的にATTIC、今もうないじゃないですか。カジタさんとも言っていたのは、ATTICみたいな自分たちが実験できる場所をまた作りたいよねとか、遊べる場所がほしいんですよ。そこから仕事になっていくのはいいけど、最初は遊びでいたいので、tab.はそれができる場所だろうと思う。



カジタ 自分も、ATTICでいろいろ試したことを今拡大して実施しているイメージがある。あの頃にだいたい勉強できた感じがあるから、そういう場所はあった方がいいんだろうなっていう気はする。

そういう実験したり遊んだりする精神みたいなものは、tab.の中に生きている感じがしますね。「tab.の遊び」が近いうちに実現することを願っております!

tab.

tab.メンバーの多岐にわたる活動の中から一例をご紹介します。

札幌爆音映画祭

音楽ライブ用音響機材を使用し、繊細な大音響で映画を体験できる上映イベントとして、全国的に人気の高い爆音映画祭。札幌で2019年、2020年と開催された札幌爆音映画祭では、企画制作を手がけている。

主催:札幌文化芸術劇場 hitaru(札幌市芸術文化財団)



インタークロス・クリエイティブ・センター(ICC)

札幌におけるクリエイティブ産業の活性化に取り組む施設。各種イベント、コンペティション、プロジェクト支援、相談対応等、2019年からディレクションとコーディネートを行っている。



オリジナルポストカード展『+P』

2006年から開催されているクリエイターの祭典。300人以上のクリエイターによるオリジナルポストカード1800種類が展示・販売され、毎年約3,000名が訪れる風物詩的イベントを主催する。2021年は7/30~8/8開催。

その他、制作(映像、デザイン、WEB等)案件は数知れず!



KYOBUN WORKS

教文の事業でも、裏方さんとして活躍するtab.メンバー。

フワッとしたアイデア段階から共有し、より発展した企画として実現することも。

和文化プロジェクト

2018年から取り組んでいる和文化プロジェクトでは、立ち上がりの企画から関わる。2019年にSCARTSスタジオで開催した「開かれる幽玄の世界〜能楽展示〜」では、能面の新しい見せ方にトライした映像展示の実現に協力。



教文演劇フェスティバル

2007年から開催している演劇の祭典とも縁が深いtab.。企画制作全体への関わりはもちろん、全国的に認知度の高い「短編演劇祭」では現場の指揮もとる。



写真:折田写真

音楽劇『わが町』

2017年に開催した子ども演劇ワークショップ発表公演音楽劇『わが町』では、宣伝美術作品をクスマエリカさんが制作し、デザインはモンマユウスケさんが手がけた。



わが町

act vol.36の仕掛けに注目!

tab.メンバーでもある写真家・美術作家のクスマエリカさんの特集した前号。教文を題材に制作してもらった2作品が表紙や中面を飾る他、tab.メンバーに協力してもらって実現した「ある仕掛け」も。次号「楽」では、その秘密が明かされます。お楽しみに!

